

## 令和7年度 中学生の「税についての作文」

沖縄国税事務所所長賞 奪っているのではなく、支えている

あげな中学校 幸喜 愛奈

日本は選挙などで「減税するべき」「消費税を廃止するべき」など、税金に対して否定的な意見や考えを持つ国民をよくニュースなどで見かける。確かに、毎月の給料から多くの税金が引かれたり、買い物をするたびに消費税がかかたりすると、「税金なんてない方がいい」と感じてしまう気持ちもわかる。しかし、私はそのような意見は税金の必要性をあまり理解できていないことが大きく関係していると思う。税金が何のためにあるのかを改めて考えてみると、その重要性に気づくことができる。

例えば、アメリカを見てみると、日本よりも税金が少ないとよく言われる。実際、アメリカでは州によっては所得税や消費税がないところもあり、給料の手取りが多く感じられることがある。その一方で医療費や教育費、老後の生活にかかるコストは非常に高額である。特に驚くのは、救急車を呼ぶだけで数万円～数十万円かかる」ともあり、保険に入つていなければその費用は全額自己負担になる。つまり、税金が少ない代わりに、生活に必要なサービスを受けるためにはすべて「自己責任」でお金を払わなければいけない国なのである。

一方、日本では救急車は無料で利用でき、

健康保険により病院の診察や治療も大部分が国に支えられている。また、義務教育も公立

であればほぼ無償で受けられ、年金や介護保険など、将来のための社会保険も整っている。これらはすべて、私達が納めている税金によって支えられているものだ。つまり、日本は誰もが最低限の生活を安心して送ることができるように、税金によって「社会全体を支えている」国である。

もちろん税金の使い道に無駄があると感じることもあるし、すべてが完璧とは言えない。しかし、それは「税金が不要」なのではなく「税金の使い方をもっと良くすべき」という議論に変えていくべきだと思う。税金に否定的な考え方を持っていたとしても、それは税金の仕組みや使い道について深く知るきっかけにもなる。

私は、税金を「国民から奪っているもの」として考えるのではなく、みんなで支え合い、安心できる社会をつくるための「参加費」のように捉えることが大切だと思う。税金があるからこそ、私たちは教育や医療を平等に受けられ、生活の中で安心を得られている。これから先の日本にとって、税金の使い方を工夫し、無駄を減らしていく努力は欠かせない。しかし、税金の存在そのものを否定するのではなく、その可能性を前向きに考えていくことが重要だと思う。